

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。



KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル 2026 春のラインナップ決定！ ムサキ×トゥバツイ、ドラ・モレレンバウム、など

この度、[一般社団法人KYOTOPHONIE](#)は、「KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル 2026 春」のラインナップを発表いたします。南アフリカ発の注目のフォークデュオ、ムサキ×トゥバツイ (Msaki x Tubatsi)、ブラジル・リオの実力派シンガーソングライター、ドラ・モレレンバウム (Dora Morelenbaum) らが登場します。



Photo by Kgomotso Neto
トゥバツイ (左)、ムサキ (右)



ドラ・モレレンバウム

各公演は、KYOTOPHONIEの姉妹イベント「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2026」開催期間に合わせて**2026年4月18日 (土) ~5月17日 (日)**に、京都市内各所にて行われます。

KYOTOPHONIEは毎年、国内外の多彩なアーティストを京都に招き、パフォーマンスを繰り広げています。春と秋に開催されるこのフェスティバルは、「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」の共同創設者であるルシール・レイボーズと仲西祐介によって2023年に設立されました。両フェスティバルは、従来のジャンル、会場、形式にとらわれず、京都と世界を繋ぐ架け橋となっています。

「KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル 2026 春」は、姉妹イベントであるKYOTOGRAPHIE 2026のテーマ「EDGE」(エッジ/際)からインスピレーションを受け、写真の枠を超えて音やパフォーマンスの世界にも広がっていきます。

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【KYOTOPHONIE 2026 Spring ハイライト】

Msaki x Tubatsi | ムサキ×トゥバツィ

with クレモン・プティ (チェロ), フレデリック・スラード (キーボード)

南アフリカのデュオが日本初公演!



Photo by Kgomotso Neto
ムサキ (左)、トゥバツィ (右)

フェスティバルのオープニング週末の**4月19日 (日)** を飾るのは、南アフリカの現代フォーク/オルタナティブ・シーンを代表する**ムサキ (Msaki)** と**トゥバツィ (Tubatsi)** によるコラボレーション・プロジェクト。「**South Africa In Focus シンポジウム**」同日開催となる本公演は京都・**東本願寺視聴覚ホール**で開催されます。

2026年のKYOTOGRAPHIEで南アフリカをフォーカスすることを決定した、KYOTOGRAPHIE / KYOTOPHONIEの共同ディレクターのルシール・レイボーズと仲西祐介は、自ら現地を訪れ、アーティストと直接対話を重ねる中で出会ったのがムサキでした。二人は、南アフリカの音楽コミュニティを牽引する存在である彼女の姿勢と音楽性に共鳴し、今回の招聘へと至りました。

決め手の一つは、2023年のKYOTOPHONIEで特集したレーベル **〈NØ FØRMATI!〉** からリリースされたムサキ×トゥバツィのアルバム『**Synthetic Hearts**』。国やジャンルを越えるその響きは強い印象を残し、現地での出会いが出演決定を後押ししました。チェリストの**クレモン・プティ (Clément Petit)**、キーボーディストの**フレデリック・スラード (Frédéric Soulard)** とともに録音された本作は、二人を京都に迎えて、生演奏として披露されます。アフリカン・フォークを軸にジャズやソウルを織り込んだ繊細な音楽性と、二人の声が重なり合うステージは、観客を深い没入体験へと導きます。京都の仏閣の地下にある現代建築と南アフリカの音楽が会う、一日限りの特別な公演です。

【関連イベント】

South Africa In Focus シンポジウム

日付：2026年4月19日 (日)

会場：東本願寺視聴覚ホール (新参拝接待所)

時間：13:00 開場 | 13:30 開始 | 15:30 終了

料金：無料 ([KYOTOGRAPHIE Webサイト](#)より要事前登録)

登壇予定：シヤブレラ・マンデラ、レボハン・ハンイエ、
ピーター・ヒューゴ、ショーン・オトゥール、
ムサキ

モデレーター：ジリアン・ウルフ



東本願寺視聴覚ホール 提供：真宗大谷派 (東本願寺)

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

Dora Morelenbaum | ドラ・モレレンbaum

With ギリェルメ・リリオ (ギター)

ブラジル音楽の伝統を継承するシンガー・ソングライター
ドラ・モレレンbaumの初となる来日ツアー



ドラ・モレレンbaum

5月16日 (土)、フェスティバルのクロージングを飾るのは、ブラジルの新世代音楽シーンを牽引するシンガーソングライター、**ドラ・モレレンbaum (Dora Morelenbaum)**。会場は京都・**渉成園 閼風亭**。歴史ある日本庭園を臨む開放的な空間に、現代ブラジル音楽の瑞々しい感性が響き渡ります。

これまでKYOTOPHONIEでは、ジルベルト・ジルやシコ・セザールといったブラジル音楽界の巨匠を紹介してきましたが、今回は「ブラジルの新しい才能」に焦点を当てたいという思いからアーティストを選定しました。その中で出会ったのが、いま国際的な注目を集める存在、ドラ・モレレンbaumです。

父はチェリストのジャキス・モレレンbaum、母はジャズシンガーのパウラ・モレレンbaumという音楽一家に生まれた彼女。両親は坂本龍一氏と長年にわたり親交を結び、数々の作品を共に制作。KYOTOPHONIE共同ディレクター自身も坂本氏との交流があったことから、ドラの存在は注目していました。グラミー賞受賞歴を持つバンド**Bala Desejo (バーラ・デゼージョ)**のメンバーとしても知られる彼女の音楽は、親密で透明感のあるヴォーカルと洗練された現代的サウンドが魅力。

今回の公演は、同じクリオデジャネイロ出身でアナ・フランゴ・エレクトリコ、ニコラス・ジェラルヂなど数々のプロジェクトに参加する気鋭ギタリスト/プロデューサーの**ギリェルミ・リリオ**とのパフォーマンスを披露します。

春の陽気に包まれた庭園を臨み、空間とやわらかな歌声が溶け合う本公演は、KYOTOPHONIEならではの体験となるでしょう。フェスティバルの締めくくりにふさわしい、記憶に残るひとときをお届けします。



渉成園 閼風亭
© Yoshikazu Inoue
KYOTOPHONIE 2023

お問い合わせ: 須田千尋 (CHIHIRO SUDA INC) chihiro@chihirosuda.com
市川靖子 (iroiro Inc.) i@iroiroiro.jp
中村葵 aoi.nakamura@kyotographie.jp
岡村サトキ (MUSIC ODYSSEY) okamura@musicodyssey.tokyo

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

KYOTOGRAPHIE / KYOTOPHONIE / KG+ キックオフ・パーティー



Photo by Kohei Take

KYOTOGRAPHIE / KYOTOPHONIE / KG+のキックオフ・パーティーを4月18日（土）、京都・CLUB METROにて開催いたします。本イベントは、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭、KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル、KG+の開幕を祝うオープニング・セレブレーションです。3つのイベントはいずれも、2026年4月18日（土）から5月17日（日）まで同時開催されます。

南アフリカを代表するシンガーソングライター、**ムサキ (Msaki)** によるソロパフォーマンスや、パレスチナ人の父と日本人の母の間に生まれ、パレスチナ問題や反戦、反差別を訴える楽曲を発表しているラッパーの**DANNY JIN**がCLUB METROに初登場。さらに、コロンビア発祥でラテンアメリカ全土で愛されるラテン音楽「クンビア」をプレイする**aiconga**などの地元DJも予定しており、多様な音楽的背景が交差する、記念すべきオープニング・ナイトです。3つのフェスティバルの開幕を祝う本公演に、ぜひご注目ください。



Msaki



DANNY JIN



aiconga

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

Clément Petit & Yasutaka Okada Live

フランスと日本の弦楽奏者が実験的なセッションで共演



クレモン・プティ



Yasutaka Okada

フランスのチェリスト、**クレモン・プティ**と、日本の「表現者」こと**Yasutaka Okada**が、**4月26日（日）**に京都・**UrBANGUILD**で共演します。

両アーティストは弦楽器を中心に活動しながら、即興や実験的なアプローチを作品の重要な要素として取り入れています。公演ではまず**Yasutaka Okada**が、音を探求する独自のアプローチによる演奏を披露し、続いてプティが登場します。彼の個性的なチェロ演奏は、伝統と即興のあいだを自在に行き来します。異なる背景を持つアーティスト同士の音楽的対話が立ち上がる一夜となるでしょう。

Frédéric Soulard Listening Session



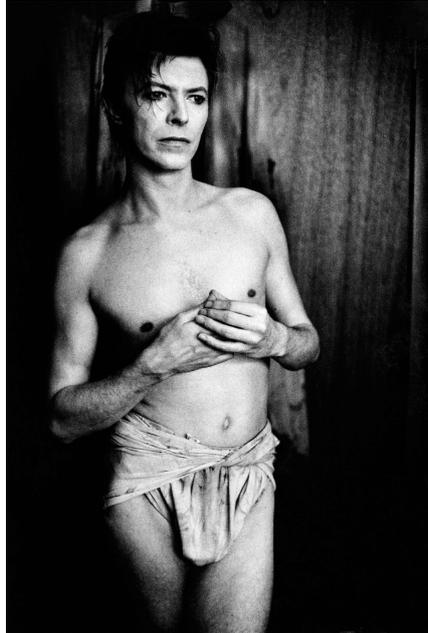
Frédéric Soulard New Album "Get High"

キーボーディストであり音楽家、プロデューサーとして活動する**フレデリック・スラード**は、**4月25日（土）**に京都・**シネマチックサルーン**にて、自身の新曲を中心としたレコードのリスニングセッションを開催します。デビュー・ソロアルバム『**Get High**』では、スラードの音楽のよりパーソナルな一面が表れています。高山の風景からインスピレーションを得た本作は、夢のように内省的な音の旅へと誘います。アンビエントと静謐なジャズのあいだを行き来する全10曲は、光に満ちた恍惚とした高揚感を呼び起こします。シネマチックサルーンの親密な空間で共有されるリスニング形式は、音楽を多角的に体験する機会を提供します。

お問い合わせ: 須田千尋 (CHIHIRO SUDA INC) chihiro@chihirosuda.com
市川靖子 (iroiro Inc.) i@iroiroiro.jp
中村葵 aoi.nakamura@kyotographie.jp
岡村サトキ (MUSIC ODYSSEY) okamura@musicodyssey.tokyo

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【音楽関連 KYOTOGRAPHIE2026プログラム】 アントン・コービンの展覧会を開催



David Bowie, Chicago, 1980 © Anton Corbijn

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2026のメインプログラムの一つとして、数多くのミュージシャンのポートレートで知られるオランダ人写真家**アントン・コービン**の展覧会が開催されます。

アントン・コービンは、デペッシュ・モード、U2、ローリング・ストーンズ、ゲルハルト・リヒター、アイ・ウェイウェイなど、世界的アーティストたちの姿を「永遠のイメージ」として写しとってきたことで広く知られています。彼が一貫して用いてきた独自のスタイル——スローシャッターによるモノクロ撮影——によって生み出されるコービンのポートレートは、被写体の繊細な動きやしぐさに宿る「身体性」を写し出しています。「完璧さよりも、不完全さの方がよほど「生」に近いと私は感じています」と、2015年の『TIME』誌のインタビューで語っています。

2025年、彼は70歳の誕生日と、アーティストとして50年の節目を迎えました。選集的回顧展というべき本展では、代表作からあまり知られていない作品まで幅広く紹介し、コービンの半世紀にわたる気鋭のポートレート表現の歩みをたどります。

展覧会タイトル：『Presence』

ANTON CORBIJN | アントン・コービン

Supported by agnès b.

With subsidy of the Embassy of the Kingdom of the Netherlands

会場：嶋臺（しまだい）ギャラリー

時間：10:00–18:00 休館日：無休

※入場は閉館の30分前まで

入場料：大人：¥ 1,500、学生：¥ 800（学生証の提示をお願いします。）

パスポートチケット、単館チケットの詳細はこちら：<https://www.kyotographie.jp/tickets/>

展覧会の詳細：<https://www.kyotographie.jp/programs/2026/anton-corbijn/>

お問い合わせ：須田千尋 (CHIHIRO SUDA INC) chihiro@chihirosuda.com

市川靖子 (iroiro Inc.) i@iroiroiro.jp

中村葵 aoi.nakamura@kyotographie.jp

岡村サトキ (MUSIC ODYSSEY) okamura@musicodyssey.tokyo

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【フェスティバル概要】

フェスティバル名：KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル 2026 春
日程：2026年4月18日（土）－ 5月17日（日）
会場：東本願寺視聴覚ホール（新参拝接待所）、渉成園 閨風亭、CLUB METRO、
UrBANGUILD、Cinematik Saloonなど京都市内各所
主催：一般社団法人KYOTOPHONIE

KYOTOPHONIE 2026 Spring スポンサー & パートナー

※2026年3月16日現在、今後追加情報あり

メインスポンサー

BYREID



THE RITZ-CARLTON

KYOTO

後援

駐日ブラジル大使館
ギマランイス・ホーザ文化院（IGR）

スペシャルパートナー

α-STATION | エフエム京都
CLUB METRO
真宗大谷派（東本願寺）
株式会社 流（RYU）

ホテルパートナー

エースホテル京都
ノーガホテル 清水 京都
ザ・サウザンド京都
ROKU KYOTO, LXR Hotels & Resorts

In Collaboration with

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【各公演概要】

公演名	KYOTOGRAPHIE / KYOTOPHONIE / KG+ キックオフパーティー
出演	ムサキ、DANNY JIN、NiSSiE、aiconga + Special Surprise Guest
公演日	2026年4月18日（土）
公演時間	21:00 開演～深夜
会場	CLUB METRO 〒606-8396 京都市左京区下堤町82 BF 恵美須ビル MAP
チケット	チケットの詳細は後日 KYOTOPHONIE公式サイト にて発表いたします。

公演名	ムサキ×トゥバツイ コンサート
出演	ムサキ×トゥバツイ（ヴォーカル） クレモン・プティ（チェロ） フレデリック・スラード（キーボード）
公演日	2026年4月19日（日）
公演時間	16:00 開場 16:30 開演
会場	東本願寺視聴覚ホール（新参拝接待所） 〒600-8167 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町 MAP
チケット料金 （税込）	一般 5,000円 学生 2,500円 チケット好評発売中！Peatix ※小学生以上チケット必要 ※チケット購入後のキャンセル・変更・払い戻しはいたしません

公演名	フレデリック・スラード Listening Session
公演日	2026年4月25日（土）
公演時間	21:00 開演
会場	Cinematik Saloon 〒602-0841 京都府京都市上京区河原町通今出川下る梶井町447-14 プランタンビル 地下1階 MAP
チケット料金 （税込）	※予約不要・先着順入場 ※別途ドリンクオーダー制

公演名	クレモン・プティ & Yasutaka Okada LIVE
出演	クレモン・プティ

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

	Yasutaka Okada
公演日	2026年4月26日（日）
公演時間	16:30 開場 17:00 開演
会場	UrBANGUILD 〒604-8017 京都府京都市中京区材木町181-2 ニュー京都ビル3F MAP
チケット料金 （税込）	前売り 3,000円+1ドリンク 当日 3,500円+1ドリンク チケット好評発売中！UrBANGUILD公式サイト

公演名	ドラ・モレレンバウム LIVE（京都公演）
出演	ドラ・モレレンバウム（ヴォーカル、ギター） ギリエルメ・リリオ（ギター）
公演日	2026年5月16日（土）
公演時間	13:00 開場 / 13:30 開演
会場	渉成園 閨風亭 〒600-8190 京都市下京区下珠数屋町通間之町東入東玉水町 MAP
チケット料金 （税込）	前売り券：一般 5,700円、学生 3,200円 当日券：一般 6,200円、学生 3,700円 *チケット料金（税込、庭園維持寄付金 700円を含む） チケット好評発売中！Peatix ※小学生以上チケット必要 ※チケット購入後のキャンセル・変更・払い戻しはいたしません
後援	駐日ブラジル大使館

【お問い合わせ】

公式ウェブサイト	KYOTOPHONIE： https://kyotophonie.jp/
公演に関する 問い合わせ先	京都公演に関するお問い合わせは、こちらまでご連絡ください。KYOTOPHONIE 事務局 info@kyotophonie.jp
主催	一般社団法人 KYOTOPHONIE

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【出演アーティスト】

ムサキ (Msaki)



ムサキの名で知られるアサンダ・ルサセニは、南アフリカの作曲家兼シンガーソングライター。ミュージシャンとして知られている彼女だが、ローズ大学、リーズ大学、ネルソン・マンデラ大学、イーストロンドン旧技術専門学校で美術、グラフィックデザイン、フィルム撮影、キュレーションを学んだ経験がある。ブラックコーヒーズ・グラミー賞受賞アルバムの制作に作詞家兼作曲家、アーティストとして関わり、南アフリカ音楽賞（SAMA）を受賞。現在はインスタレーションとパフォーマンスを合わせた作品を通じ、音楽とビジュアル表現を意図的に融合させる創作活動を行っている。この表現方法は、2022年にヨハネスブルグのニロックス彫刻公園で発表されたアルバム『Of Love in Protest』や、ナショナル・アーツ・フェスティバル 2023の『Ndiyozilanda』の発表を通して見られる。また、彼女は2022年のスタンダード・バンク・ヤングアーティスト賞（音楽部門）に選ばれ、今年のヴェネチア・ビエンナーレにて南アフリカパビリオンに参加予定。

[Instagram](#)
[Spotify](#)

トゥバツイ (Tubatsi)



トゥバツイ・ムポ・モロイ (Tubatsi Mpho Moloji) は、ブルース、ジャズ、ロック、アフリカン・フォークを融合させた音楽を手がける南アフリカのシンガーソングライター。ギタリストのガイ・パタリー、フィリップ・タバネ、ポップ・ディラン、ジム・シクワネらの影響を受け、探求的なフォーク・サウンドを生み出している。

ソウェトで育った彼は、幼い頃からパフォーマンスを始め、後にミュージカル『Umoja』にも出演。現在は実験的バンドUrban Villageのリード・ボーカルを務め、フルート、ギター、ムビラの演奏も担当している。

これまでにアルバート・フロスト、レディスミス・ブラック・マンバーズ、フェミ・コヤ、マダラ・クネネらと共演。Nirox Foundationのレジデント・アーティストとして活動するほか、AfropunkやNational Arts Festivalなどのフェスティバルにも出演している。

[Instagram](#)
[Spotify](#)

クレモン・プティ (Clément Petit)



常に新しい音やアーティストとの出会いを求め続ける、探究心あふれるチェリスト。コラボレーションをこよなく愛し、拡張奏法を取り入れながら多様な音楽言語を横断することで、チェロの可能性を大きく広げている。

多文化が入り混じるパリ郊外で育ち、アフロ・アメリカンやカリブ音楽、エレクトロニック・ミュージックに親しんだ経験を持つ。その後、現代音楽や即興音楽の世界へと活動の場を広げてきた。こうした背景が、ジャンルの境界を軽やかに越え、音と音が自由に交わる彼ならではの表現を形づくっている。

チェリストであり、作曲家、プロデューサーでもあるプティは、その柔軟で開かれたビジョンをあらゆるプロジェクトに反映させてきた。これまでに、ウム・サンガレ、サリフ・ケイタ、アンジェリーク・キジョー、アロー・ブラック、ベン・ロンクル・ソウル、ブリック・バッシー、ムサキ、ヤエル・ナイム、ピアーズ・ファッチーニ、メリッサ・ラヴォー、アラニ、ナイサム・ジャラル、ブランデット、ロジヨ、レイラ・マルシャル、フィデル・フルネイロンなど、国内外の多彩なアーティストと共演している。

[Instagram](#)
[Spotify](#)

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

<p>フレデリック・スラード (Frédéric Soulard)</p> 	<p>ミュージシャン／プロデューサー。20年以上にわたり、好奇心とコラボレーションへの情熱を原動力に、多様な音楽領域を横断して活動。自身のバンド Limousineとしてタイでアルバムを制作するほか、南アフリカではUrban VillageやMsaki x& Tubatsiとレコーディングを行う。坂本龍一へのトリビュートプロジェクト「Asynchrone」を手がけるなど活動は多岐にわたる。プロデューサーとしても、Piers Facciniのフォーク、Thomas de Pourqueryのフリージャズ、Jeanne Addedのシンセポップ、Poni Hoaxのエレクトロロックなど、ジャンルを横断した作品を手がけている。</p> <p>Instagram Spotify</p>
<p>Yasutaka Okada</p> 	<p>1985年、京都に生まれる。contrabass / daxophone / synthesizer / guitar / piano / field recording / etc... 自身の作品のサウンド全てを自ら奏でる。宇宙のエネルギー、死後の世界、民族意識とのシンクロ、自然界との関わりを音の波動として世界に解き放つ。まるで一つの映画を観ているような表現は、目を閉じ感覚の一つを遮断することでより深い世界へと誘う。ピアノトリオ「kott」のメンバーとして『FUJI ROCK FESTIVAL '23』に出演。Penguinmarket Recordsより「写真集+音源」作品『inside』を発表し、本年のKYOTOGRAPHIE KG+では、北大路エリアの拠点「FOR/M」にて作品『路』を展示。</p> <p>Instagram Spotify</p>
<p>ドラ・モレレンバウム (Dora Morelenbaum)</p> 	<p>リオで最も魅力的なシンガーソングライターの一人。ラテン・グラミー賞を受賞したスーパーグループBala Desejoのメンバーとして世界中の観客を魅了し、ダンスフロアやコンサートホールにエネルギーと喜びを届けている。ソロ活動では、甘美な歌声と洗練された作曲で高い評価を受け、伝説的なMPBアーティスト、ジョイス・モレーノに例えられることもある。</p> <p>2024年発表のデビューアルバム『Pique』では、MPB、ジャズ、ファンク、ソウル、ディスコを融合。バンドリーダーとしての存在感、好奇心あふれる作曲家としての才、そして表現力豊かなパフォーマーとしての力を発揮している。遊び心あるプロダクションと緻密なアレンジのもと、家族やBala Desejoのメンバーを含む才能あるミュージシャンたちの演奏が見事に結実した作品となっている。</p> <p>Instagram Spotify</p>

本プレスリリースの情報は、2026年3月17日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【KYOTOPHONIEについて】



京都で年約2回開催される「KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル」は、ルシール・レイボーズと仲西祐介（KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭の共同創設者）によって2023年からスタートした音楽フェスティバルです。2023年春から2024年秋までに、延べ約37,000人の観客を動員しました。

KYOTOPHONIEは、従来のジャンル、会場、形式にとらわれないクリエイティブな実験を促します。このような実験と分野横断的コラボレーションこそが、本フェスティバルの特徴です。KYOTOPHONIEは、京都府内のユニークな会場で、シーンを彩るアンダーグラウンドなアーティストから世界で活躍する国際的なアーティストまで、多彩なラインナップを紹介しています。

春開催の「KYOTOPHONIE Spring」は、姉妹イベントである「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」のその年のテーマからインスピレーションを受けアーティストを選定し、写真や音楽の枠を超えて同時開催しています。「KYOTOPHONIE Autumn」は、さらに自由なラインナップによって未知の音楽体験を提供し、世界を旅するような感覚を共有します。

2023 Spring — Club METRO / 東福寺塔頭 光明院 / HOSOO Hall / 金剛能楽堂 / ロームシアター京都 サウスホール / 京都コンサートホール アンサンブルホール（小ホール） / 渉成園 / 八竹庵（旧川崎家住宅）
サリフ・ケイタ / ルーカス・サンタナ / 山川冬樹 / EUTRO / TRIO SR9 / サンドラ・ンカケ / ラ・チカ / SHOW-GO / KYOTO JAZZ SEXTET / 森山威男 / 中野公揮 & 吉田簀紫郎（文楽人形遣い） / バラケ・シソコ / ヴァンサン・セガール / ピエル・ファッチーニ / 大友良英 / 小山田圭吾 / 田中知之 (FPM) / ピーター・バラカン / Kobeta Piano 他

2023 Autumn — 天橋立

シンド・カフカ directs el tempo / シコ・セーザル / U-zhaan×環ROY×鎮座DOPENESS / baobab / ジュリア・ショートリード / LUCA×山本啓×仙石彬人 / 青葉市子 / 石橋英子 Band Set / ルエジ・ルナ / INNA DE YARD (HORACE ANDY, CEDRIC MYTON from The Congos and WINSTON MCANUFF, backed by Home Grown) / 西原 鶴真 / Eki Shola / 仕立て屋のサーカス

2024 Spring — 八竹庵（旧川崎家住宅） / 東本願寺視聴覚ホール / Club METRO

ロス・グラシオソ / シェニア・フランサ / ダビ・コペナワ / イーモン・ドイル / ナイルスウィーニー / ダビッド・ドノホ / ケヴィン・バリー / Black Boboi / kott / CROSSBRED 他

2024 Autumn — ロームシアター京都 メインホール

ジルベルト・ジル、アケリ・アブラッソ・ジャパントア 2024

2025 Spring — ヒューリックホール京都 / ロームシアター京都 サウスホール / Club METRO

サウンドウォーク・コレクティヴ & パティ・スミス / フィリペ・カット / KOM_I / 小林七生 (FATHER) / KUNIKO 他